

自然復興 戦略ハンド ブック

企業のための
実践的なガイド

バージョン
2023年11月

It's Now
for Nature

このハンドブックについて

自然復興戦略ハンドブックの目的は、企業や金融機関を問わず、すべての企業が、ネイチャーポジティブの世界に向けて有意義な貢献ができるよう、自然復興戦略を進めることを支援することです。

このハンドブックは、すべての企業が自然復興のために行動し、2030年までに生物多様性の喪失を食い止め、反転させるという[生物多様性枠組](#)の使命に貢献するよう呼びかけるグローバルキャンペーン「今こそ自然復興のために」の基礎となるものです。企業は、「今こそ自然復興のために」ウェブサイト で戦略を提出するよう奨励されています。この戦略の提出で、キャンペーンに参加することができ、また増え続けている、自然復興に関する企業活動を拡大・加速することの必要性を認識する企業の仲間入りができます。

自然復興戦略ハンドブックは、[ACT-Dの自然復興に関するハイレベル企業行動](#)（評価、コミット、変革および開示）に基づき、信頼できる自然復興戦略の主要な構成要素を示しています。

各ステージについて深く掘り下げ、自然復興に関する戦略を策定するための指針となる質問、推奨事項、リソースを提供し、それが単独の文書としてであれ、事業戦略、気候変動戦略、持続可能性戦略に含まれるものであれ、自然復興に関する戦略を策定するための指針となるものです。

コンテンツは、[CSRD（企業の持続可能性報告に関する指令）](#)、[TNFD（自然復興関連の財務開示に関するタスクフォース）](#)、[科学的根拠に基づく目標ネットワーク（SBTN）](#)、[NAI100](#) その他の主要な枠組や開示要件など、現行の自然復興関連枠組および規制の要件に合わせて開発されています。これは、WBCSDの「ネイチャー・ポジティブへのロードマップ」にも基づいています。すべてのビジネスの基盤。自然復興戦略ハンドブックは、利用可能なリソースと要件に基づき、すべての企業が自然復興のための戦略を設定することにより、ネイチャーポジティブな未来への旅を開始または継続するための一般的な方向性を提供します。

目次ページ

自然復興戦略ハンドブックの使い方 3

ACT-Dとは? 3

御社の自然復興戦略に...

評価、
コミット
変革
開示 4,5
6
7,8,9
10

を含む方法

用語集 11, 12, 13

自然復興戦略 ハンドブックの使い方

自然復興戦略ハンドブックは、ACT-Dに記載された次の4つのハイレベルなビジネスアクションに従います：評価、コミット、変革および開示。企業が自然復興に対してポジティブな世界に貢献するために取るべき行動がまとめられています。このハンドブックは、これらの4つのアクションをさらに4つのパートに分類することで、読者が4つのアクションを自然復興戦略の中に組み込めるよう案内しています：

1 ステップ：

自然復興戦略ハンドブックは、ACT-Dの4つのハイレベルアクション（評価、コミット、変革および開示）によって構成されています。これらの高レベルの行動それぞれは、自然復興戦略の内容をまとめた主要なステップに分けられます。

2 指針となる質問：

各ステップには、企業が自然復興戦略を策定するために必要な情報を特定するのに役立つ指針となる質問があります。これらの指針となる質問は、初めて戦略を策定する企業にとって有用な出発点であり、社内の戦略ワークショップで議論する際の質問として利用できます。

3 推奨事項：

推奨事項は、指針となる質問に応える形になっており、信頼できる自然復興戦略に含めるべき内容を明確にしています。

4 外部リソース：

外部リソースは、広く使用されている自然復興関連の枠組みやアプローチに関する参考文献とリンクを提供しています。企業は、これらのリソースを利用して、推奨事項に従って自然復興戦略を策定することを支援しなければなりません。

大まかに論理的な順序に従っていますが、このハンドブックは自然復興戦略のためのデザインテンプレートではありません。これにより、企業は戦略内のコンテンツの順序と流れをコントロールする責任を負います。

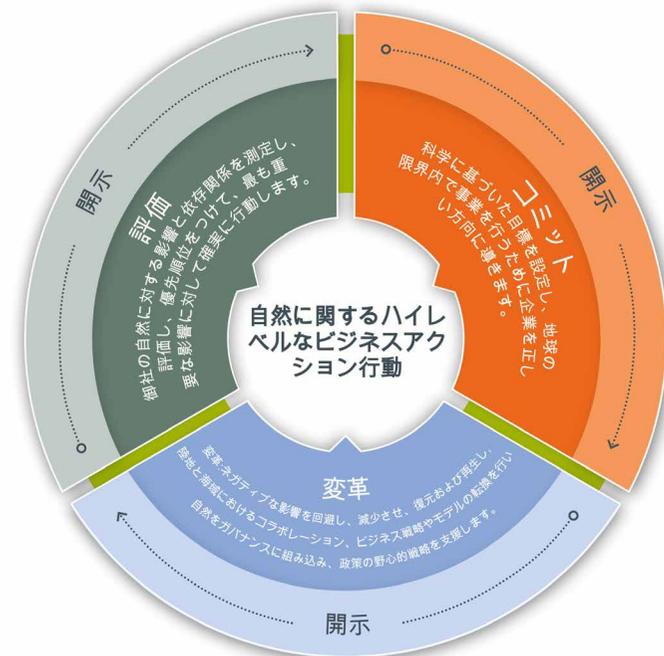
巻末に用語集があります。

ACT-Dとは？

ACT-Dとは、[自然復興に関するハイレベルのビジネスアクション](#)のことです：評価、コミット、変革および開示は、[資本連合](#)、[ビジネス・フォー・ネイチャー](#)、[WBCSD \(持続可能な開発のための世界経済人会\)](#)、[TNFD \(自然関連財務情報開示タスクフォース\)](#)、[科学に基づく目標ネットワーク](#)、[世界経済フォーラム](#)および[WWF \(世界自然保護協会\)](#)の協力のもと開発され、多くの主要組織が支援しています。

このハンドブックの内容は、ACT-Dに基づいて、企業が将来を見据えた自然復興戦略をどのように設定し、どこで最も有用なツールや専門知識を見つけられるかを示しています。

ACT-Dは、企業が自然復興との関係を評価し、目標を設定し、生物多様性を回復および再生させながら負の影響を回避し、削減するための行動をとることを支援するための様々なツールや枠組、イニシアティブを通じて企業をガイドします。



自然復興戦略に「評価」を含む方法 [1/2]

自社のビジネスモデルに関連する自然復興への重大な影響と依存関係を明確にします。自社のビジネスモデル、戦略、および財務計画にどのような影響を及ぼすかについて、重大なリスクと機会を概説します。自社の自然復興戦略が、自社のビジネスモデルやより広範な企業戦略（気候や人材を含む）とどのように統合されているかを説明します。

ステップ	取り組みに優先順位付けるために最初の重要度評価を実施する	自然復興に対する影響と依存性を測定し、評価する
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物多様性に対するインパクトと依存性を特定するために、最初の重要度評価をどのように行い、どのような重要度の閾値（基準値）を使用しましたか？ 2. 重要な影響と依存関係はどのようなものであり、それらはバリューチェーンのどこで発生していますか？ 3. 自社の重要な影響と依存関係はいつ（短期的、中期的、長期的に）発生すると予想されますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な影響や依存関係はどの地理的な場所で起こり、それらはそれらは影響を受けやすい地域と重複していますか？ 2. 自然復興に対する重大な影響と依存性を測定し、評価するために、どのような方法論を用いて、どのくらいの期間をかけて行っていますか？ 3. 重大な影響や依存関係を測定し、評価するために、どのような計測値を使用していますか？ 4. 重大な影響と依存性はどの程度ですか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 重要度評価の範囲は、以下を含みます： <ul style="list-style-type: none"> - 活動 - 影響の大きい商品 - バリューチェーン（アップストリーム、ダウンストリーム、直接） - 地理的な位置 <input type="checkbox"/> 自然復興環境アセスメントの範囲を長期的に拡大する計画 <input type="checkbox"/> 重大な影響と依存関係の概要 <input type="checkbox"/> 御社のバリューチェーンにおける重大な影響および依存関係がある段階 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 御社の重大な影響や依存関係が発生する場所の概要 <input type="checkbox"/> これらの場所のどれが自然復興にとって影響を受けやすい地域内にあるかについての概要 <input type="checkbox"/> 使用した指標や測定基準を含む、重大な影響や依存関係の評価
リソース	<p>ENCOREエクスプローラツール</p> <p>SBTNステップ1テクニカルガイドライン [ステップ1A: 重要度評価 (p.30)]</p> <p>自然復興資本プロトコルの規模の段階</p> <p>TNFD: 自然復興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [場所: L1 (p.43)、L2 (p.46)]</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興) へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.9)]</p> <p>自然復興に対してポジティブな未来に向けてのBfNセクター活動</p>	<p>自然資本プロトコル [計測と価値ステージ]</p> <p>SBTNステップ1テクニカルガイドライン [ステップ1B: バリューチェーン評価、(p.54)]</p> <p>SBTNステップ2テクニカルガイドライン [ステップ2B: インタープレットとランク (p.34)]</p> <p>TNFD: 自然復興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [場所: L3 (p.50)、評価: E1 (p.69)、E2 (p.71)、E3 (p.78)]</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興) へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.10)]</p>

自然復興戦略に「評価」を含む方法 [2/2]

自社のビジネスモデルに関連する自然復興への重大な影響と依存関係を明確にします。自社のビジネスモデル、戦略、および財務計画にどのような影響を及ぼすかについて、重大なリスクと機会を概説します。自社の自然復興戦略が、自社のビジネスモデルやより広範な企業戦略（気候や人材を含む）とどのように統合されているかを説明します。

ステップ	リスクと機会を評価する	自然復興評価の中で気候と人々を考慮する
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 最初の重要度評価に基づいて、御社の重要な自然復興関連のリスクと機会はどのようなもので、それらは御社のバリューチェーンのどこに存在していますか？ 御社にとって、重要な自然復興に関連するリスクや機会があるのはいつ（短期的、中期的、長期的に）だと予想されますか？ 御社にとって、重要な自然復興関連のリスクと機会があるのは、どの地域ですか？ 御社の重大なリスクや機会を監視し、評価するために、どのような指標を使用していますか？ 御社の重要なリスクと機会は、ビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画、移行計画にどのように影響を与えますか？ 御社の自然復興関連のリスクや機会が、現在または将来的に財務に与える影響にはどのようなものがありますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 評価の中で、気候や人々をどのように考慮しましたか？ 直接的な事業およびバリューチェーンの中で、先住民や地元コミュニティに対する潜在的な影響を評価しましたか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> (御社の影響や依存関係に基づく) 御社の重要な自然復興関連のリスクと機会 <input type="checkbox"/> 御社のバリューチェーンのどこに御社の重要な自然復興関連のリスクと機会が存在するか、および影響を受ける主要な地理的場所 <input type="checkbox"/> 御社の重要なリスクと機会が御社のビジネスモデル、戦略、財務計画、移行計画にどのように影響するか <input type="checkbox"/> これらの重要なリスクと機会を評価し管理するために使用している方法論と指標 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 重大な自然復興に関連する影響、依存性、リスク、機会に関する評価において、内部および外部の利害関係者とどのように相談したかについての説明（これには、これらの利害関係者が特定した主要な問題および関心事、および評価の際に取られた対応措置が含まれます） <input type="checkbox"/> 利害関係者の説明は、バリューチェーン全体を表すものであり、以下の関連するものを含むものでなければなりません： <ul style="list-style-type: none"> - 労働力 - 企業運営またはソーシング活動に隣接するコミュニティ - 遠方に住んでいるが、御社の環境への影響によって影響を受けているコミュニティ - 顧客 <ul style="list-style-type: none"> - 専門家およびNGO - 先住民 - ソース/サプライヤー <ul style="list-style-type: none"> - 女性と少女 - その他関連するもの <input type="checkbox"/> 評価の中で気候と公正な移行の検討方法（注：トランスフォームで詳細について）
リソース	<p>TNFD: 自然復興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [評価: A1 (p.101)、A2 (p.113)、A3 (p.117)]</p> <p>WWFリスクフィルタースイート</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.13)]</p> <p>CISL NBS診断ツール</p>	<p>SBTN利害関係者エンゲージメントガイドライン</p> <p>TNFD: 先住民、地域コミュニティおよび影響を受けた利害関係者との関わりに関するガイドライン</p> <p>IUCNの自然復興ベースのソリューションのためのグローバルスタンダード</p>

御社の自然復興戦略に「コミット」を含む方法 [1/1]

ネイチャーポジティブな世界に貢献するという企業としての野心の概要を提供します。自然復興のために設定した目標、それらの達成期間および主要なマイルストーン、それらが関連するインパクト、依存関係、リスクまたは機会、および進捗のモニタリング計画を含めて下さい。

ステップ	野心と目標を定義する	ターゲットを設定
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然復興戦略に対する野心は何どのようなものですか？また、この戦略が自然復興と企業にどのような影響を与えることを望んでいますか？ 2. この野心は、ネイチャーポジティブな未来（および生物多様性枠組の目標やターゲット）と一致していますか？ 3. この野心を達成するためのタイムラインはどのようなものですか？ 4. 自然復興に対して行動を起こすための企業の理由は何ですか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野心の達成に貢献するために、どのような目標を設定していますか？また、企業とバリューチェーンのどの部分に関連していますか？ 2. ターゲットは、どのような影響、依存、リスク、機会に関連していますか？ 3. 目標に向けた進捗状況をどのように監視、評価し、開示しますか？ 4. 他の目標（例：気候、社会、その他の持続可能性目標）が自然復興の目標と関連しているかどうかを考えたことがありますか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> ❑ 行動を起こすための企業事例を含む自然復興への野心の声明 ❑ 自然復興に関する意欲が、2030年までのネイチャーポジティブな世界に貢献し、生物多様性枠組の目標およびターゲットとどのように整合するかについての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ❑ 設定した自然復興に関連するターゲット（SMART）は、次のようになります： <ul style="list-style-type: none"> - 御社の自然復興志向とどのように関連しているか - 地理的な位置（適切な場合）、およびそれらが関連する企業およびバリューチェーンの一部 - 影響、依存性、リスク、機会（評価項目で特定）に関連するもの - 目標を達成するためのタイムフレーム、すべてのマイルストーンまたは暫定目標を含む - 第三者の利害関係者によって検証されているかどうか、そして/または科学に基づいているか、科学に準拠しているかどうか、まったくそうでないか ❑ 各ターゲットに使用される測定基準、KPI、基準値、基準年（該当する場合）、および情報の空白を埋めるための計画を含む、目標に対する進捗状況を監視、評価し、開示するための計画 ❑ 自然復興目標と気候目標が互いに支え合う方法
リソース	クンミング・モントリオール生物多様性枠組	TNFD：自然復興に関連する問題の特定および評価に関するガイドライン：LEAPアプローチ [準備： P2 (p.145)] SBTN ステップ 3： ターゲットの測定、設定および開示 ネイチャーポジティブ(自然再興) へのWBCSDロードマップ - すべての企業のための基礎 [コミットと変革 (p.25)]

御社の自然復興戦略に「変革」を取り入れる方法 [1/3]

自然復興との関係を管理し、目標を達成し、自然復興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。御社の戦略策定にあたり、どの利害関係者と関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	回避と削減	回避と削減
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然復興に対する悪影響を避けるために、どのような行動をとっていますか？ 2. 自然復興に対する悪影響を減らすために、どのような行動をとっていますか？ 3. これらの行動は、御社の重大な影響、依存関係、リスク、機会にどのように関連し、管理していますか？ 4. これらの行動の進捗状況をどのように監視し、評価していますか、そしてそれらが御社の自然復興志向目標とどのように関連していますか？ 5. 回避したり削減したりすることができない重大な影響はありますか？その理由は何ですか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然を回復し再生するために、御社はどのような行動をとっていますか？ 2. これらの行動は、御社の影響、依存関係、リスク、機会とどのように関連していますか？ 3. これらの行動の進捗状況をどのように監視し、評価していますか、そしてそれらが御社の自然復興志向目標とどのように関連していますか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの) :	<p>□ 御社の重要度評価に基づいて、自然に対する影響を回避し、軽減するために御社が取っている行動について、次のように説明します：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 対象となる活動と場所 - これらの行動がどのように認識された影響、依存関係、リスク、機会を管理するか - これらの行動が御社企業とバリューチェーンとどのように関連しているか - これらの行動が御社の自然復興への意欲とターゲットにどのように関連しているか - 進捗を確認するために、これらの行動をどのように監視し、評価するか (使用する指標を含む) 	<p>□ 御社の重要度評価に基づいて、自然復興を回復・再生するために御社が取っている行動について、説明します：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 対象となる活動と場所 - これらの行動は、特定された影響、依存関係、リスク、機会をどのように管理するか - これらの行動が御社企業とバリューチェーンとどのように関連しているか - これらの行動が御社の自然復興への意欲とターゲットにどのように関連しているか - 進捗を確認するために、これらの行動をどのように監視し、評価するか (使用する指標を含む)
リソース	<p>SBTN初期企業ガイドライン [Act (p.4)] ネイチャーポジティブ (自然再興) への未来に向けたセクターアクション</p>	<p>SBTN初期企業ガイドライン [Act (p.4)] ネイチャーポジティブ (自然再興) への未来に向けたセクターアクション</p>

御社の自然復興戦略に「変革」を取り入れる方法 [2/3]

自然復興との関係を管理し、目標を達成し、自然復興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。御社の戦略策定にあたり、どの利害関係者と関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	企業戦略とモデルの転換	御社のバリューチェーンに沿って、風景、海景、川流域レベルの両方でコラボレーションする
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定の自然に関連するリスクと機会を管理するために、どのような行動をとっていますか？ 2. 自然に関連するリスクと機会に対する御社の行動に関連する選択肢と取引条件は何ですか？ 3. ネイチャーポジティブな世界に貢献するために、企業戦略やモデルをどのように適応させていますか？ 4. 変革を実現するためには、どのような資源と財政的/組織的变化が必要ですか？ 5. 御社の自然復興戦略は、気候、社会、そしてより広範な企業戦略とどのように統合し、支援していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. どのように自然復興に関わる御社のバリューチェーンに関わり、協力していますか？ 2. 景観レベルで改善された自然復興の結果を提供するために、利害関係者とどのように協力していますか？ 3. この戦略の設計において、他の利害関係者の視点をどのように考慮しましたか？ 4. 自然復興に対する活動を推進するために他の企業をどのように支援していますか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの) :	<ul style="list-style-type: none"> ❑ 重要な自然復興関連のリスクと機会を管理するために御社が取っている措置 ❑ 自然復興に関連する影響、依存関係、リスク、機会に対する企業戦略とモデルの回復力 ❑ 影響、依存関係、リスク、機会を管理するための措置の一環として、企業戦略やモデルに対して行う変更 ❑ この変革に必要な資源または財政的/組織的变化 ❑ 御社の自然復興戦略が、気候、社会、およびより広範な企業戦略を統合し、支援する方法 	<ul style="list-style-type: none"> ❑ バリューチェーンや他の利害関係者とのように関わり、協力し、回避、削減、再生、回復するか ❑ (自然復興に関連する影響、依存性のリスクおよび機会に対応する) 戦略の設計において協議した社内外の利害関係者、これらの特定の利害関係者によって特定された主要な問題および関心、ならびに利害関係者の懸念および関心に対応するために講じた措置-これらの利害関係者は、バリューチェーン全体を代表し、以下に列挙するすべての利害関係者のうち、関連するものを含むべきである: <ul style="list-style-type: none"> - 労働力 - 企業運営またはソーシング活動に隣接するコミュニティ - 遠方に住んでいるが、御社の環境への影響によって影響を受けているコミュニティ - 顧客 <ul style="list-style-type: none"> - 女性と少女 - 専門家およびNGO <ul style="list-style-type: none"> - ソース/サプライヤー - 先住民民族 <ul style="list-style-type: none"> - その他関連するもの ❑ 御社の自然復興に関連する活動によって影響を受ける利害関係者がどのように公式に関与しているか
リソース	<p>TNFD: 自然復興に関連する問題の特定および評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [準備: PI (p.139)]</p>	<p>SBTN利害関係者エンゲージメントガイドライン TNFD: 先住民民族、地域コミュニティおよび影響を受けた利害関係者との関わりに関するガイドライン 追跡可能性に関する国連グローバルコンパクトガイド IUCNの自然復興ベースのソリューションのためのグローバルスタンダード ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.27)]</p>

御社の自然復興戦略に「変革」を取り入れる方法 [3/3]

自然復興との関係を管理し、目標を達成し、自然復興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。御社の戦略策定にあたり、どの利害関係者と関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	野心的な政策とイニシアティブの提唱	御社の企業ガバナンスに自然復興を組み込む
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 御社の提唱活動は、生物多様性枠組の目標やターゲットとどのように合致していますか？ 皆さんの業界団体の立場は、どのようにして自然復興への野心と一致し、生物多様性枠組の目標とターゲットの意欲を支援していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> この戦略に対する監督および責任を負うガバナンスおよび管理機関はどのようなものですか？ 戦略の進捗状況をガバナンス機関や広範な利害関係者に知らせるために、どのような報告報告体制をとっていますか？ 全体的なリスク管理プロセスに自然復興がどのように統合され、この戦略を実現するために追加のポリシー、枠組、手順、リソースが設けられていますか？ どのような利害関係者の参画および苦情処理プロセスがあり、誰がそれらの責任を負っていますか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの) :	<ul style="list-style-type: none"> ❑ 御社が取り組んでいる自然復興に関連する提唱活動の概要 ❑ 御社の提唱活動が、御社の自然復興志向と、生物多様性枠組の目標やターゲットの志向とどのように一致しているのか、および整合性がとれていない理由 ❑ 御社がメンバーである主要な貿易協会の概要とそれらが御社の志向にどのように合致しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ❑ この戦略を監督する取締役会および/またはエグゼクティブマネジメントレベルの委員会 ❑ この戦略に照らして取られた行動を管理し、監視するためのプロセス ❑ 管理、経営、および監督機関の監督機能を行使し、重要なインパクト、依存関係、リスク、および機会を管理するプロセスについて報告を受けるための役割と責任、特にこれらのプロセスにおける経営陣の役割についての説明 ❑ 自然復興に関連する業績がインセンティブ制度に組み込まれているかどうか ❑ 自然復興に関連するリスクを識別、評価、優先順位付け、管理するプロセスと、およびこれをリスク管理プロセス全体にどのように組み込むか ❑ 利害関係者の参画を含め、本戦略を実施・伝達するために設けられている追加の方針、枠組み、手順 (人権方針および苦情処理メカニズムを含む)、およびリソース
リソース	<p>自然復興のための企業の政策推奨事項 Metabolic Nature-based Solutions Policy Tracker (メタボリック自然復興ベースのソリューション政策トラッカー) 私たちは企業連合を意味します: A Framework for Responsible Policy Engagement (責任ある政策関与のための枠組み) ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.29)]</p>	<p>TNFD: 自然復興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v1.0 ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.27)]</p>

御社の自然復興戦略に「開示」を含む方法 [1/1]

御社の戦略が信頼できるようにするために御社が取っているステップを概説します。戦略に対する成果を伝えるために、主要な報告基準とどのように整合させるかを説明します。

ステップ	行動の信頼性を高めるために独立した検証と確認を求めます	主要なレポート基準に対応するレポートを整合させます
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務戦略および情報開示について、どのように内部保証および独立した外部保証を求めたか、または求める予定ですか？ 2. その他の自然復興に関する取り組み、認証、認定で、御社が連携しているもの、または要件を満たしているものはありますか？ 3. 自然復興のターゲットについて、独立した検証機関とどのように連携していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、どのような自主的・義務的な自然復興関連報告基準に照らして報告していますか、または今後報告する予定ですか？ 2. 御社の自然復興に関連する報告の範囲はどのようなものですか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの) :	<ul style="list-style-type: none"> □ 自然復興戦略および開示のうち、内部保証および独立した外部保証を求めた／求める予定の部分と、その保証を提供した人物の説明 □ 現在、自然復興のターゲットを検証するために独立した機関と協力しているか、または協力する予定があるかについての詳細 □ 戦略の他の要素 (地域または国の認証／イニシアチブなど) でカバーされていない、自然復興に関するイニシアチブ、認証または認定で、御社が連携しているもの、または要件を満たしているもの 	<ul style="list-style-type: none"> □ 御社が現在報告している、または将来報告する予定の自発的および/または義務的な (関連する場合) 自然復興に関連する報告基準 □ 自然復興に関連する報告の範囲 (もしあれば) およびそれらが関連する企業およびバリューチェーンの部分について
リソース	<p>TNFD: 自然復興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v.1.0</p> <p>読者向けのSBTNガイド</p> <p>ENCOREエクスプロールツール</p> <p>自然復興に関するハイレベルなビジネスアクション</p>	<p>自然復興に関するハイレベルなビジネスアクション</p> <p>TNFD: 自然復興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v1.0</p> <p>TNFDの推奨事項の採択からスタートする</p> <p>WBCSDのTNFDパイロット: 23のグローバル企業とのTNFDのパイロット活動からの教訓</p> <p>CDP報告および情報開示ガイダンス</p>

用語集

自然復興への 野心

企業が自然復興に対するリスク、影響、依存に対処するためのコミットメントと計画を明確にし、自然復興に対してポジティブで、ネット・ゼロで、公平な世界に貢献することを宣言する文書。それは戦略を導き、従業員に力を与え、利害関係者に情報を提供します。

回避および 削減

回避：影響を最初に予防し、影響を完全に排除します。

削減：以前の基準値からの影響を完全に排除することなく最小限に抑えます。

科学的根拠に基づいたターゲットネットワーク (2023) [SBTN用語の用語集](#)

依存関係

組織またはその他の関係者が機能するために依存している生態系サービスの側面。依存関係には、生態系の、水流、水質、火災や洪水などの災害を調整する能力、花粉媒介者に適した生息地を提供する能力（花粉媒介者は経済に直接サービスを提供する）、炭素を隔離する能力（陸域、淡水域、海洋域）などが含まれます。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5 \(a\) を実施する方法に関する政府への勧告](#)

影響

自然復興の状態の変化は、自然復興が社会的および経済的機能を提供する能力に変化をもたらす可能性があります。影響はポジティブかネガティブ、実際か潜在かもしれません。それらは、組織または他の当事者の行動の結果であり、直接的、間接的、または累積的なものである可能性があります。これらの影響は、企業にとって財務的に重要である場合もありますが、必ずしも必要ではありません。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5 \(a\) を実施する方法に関する政府への勧告](#)

公平な転換

高炭素経済から低炭素経済への移行において、いかなる人々、労働者、場所、部門、国、地域も取り残されないようにすることを目的とした一連の原則、プロセス、実践。

IPCC、2022年： [附属書1：用語集](#)

重要度

重要度や意義を見分ける方法です。

普遍的に合意された定義はありません。企業は、報告管轄地域の規制当局が提供する重要度に関する定義ガイダンスを利用すべきです。ガイドラインがない場合、TNFDは、組織が基準として一般財務報告書の利用者にとって重要な情報を特定するためのISSBのアプローチを適用することを推奨します。ISSBの基準に加えて情報を特定するために、異なる重大性アプローチに報告したい、または報告する必要がある企業は、影響度重大性アプローチを適用することができます。影響の重大性については、TNFDは、GRIの持続可能性報告基準の言語とアプローチにより、その勧告（および追加のガイドラインをサポートする）を一致させました。生物多様性枠組の目標5に準拠しようとする企業は、グローバル基準に加わる情報を特定するために影響度重大性レンズを適用することを検討したいと考えます。

国際財務報告基準 (2023年) [IFRS S1：持続可能性に関連する財務情報の開示に関する一般的な要件](#)、GRI (2021) [GRI 1：ファウンデーション2021、セクション2.2](#)

用語集 [cont.]

自然復興

自然復興は、地球上のすべての生命が依存する四つの領域の構造を通して理解できます： 大気、淡水、陸地、海洋。

自然復興には、自然資源と生態系の健康、豊かさ、回復力を支える生物多様性が含まれています。私たちは、生物多様性の喪失が生物多様性の喪失全体の重要な要素であることを認識しています。

「自然復興のための企業」(2023) [The Business Case for Nature](#)

自然復興志向

ネイチャーポジティブ(自然再興)は、2030年までに生物多様性の喪失を止め、反転させ、自然復興(種や生態系)が減少するのではなく、回復され、再生されることを目指しています。これは、生物多様性に対して純粋に肯定的であり、種、生態系およびプロセスの健康、豊富さ、多様性および抵抗力が直接かつ測定可能に増加する結果を指します。生物多様性のグローバル目標は、2030年までに生物多様性の喪失を反転させることであり、2030年までにネイチャーポジティブ(自然再興)と表現されることです。この野心は、2022年12月に国連生物多様性条約の196カ国によって採択されたクンミング・モンリオール生物多様性枠組みの使命に定められています。

[Nature Positive Initiative](#)

自然復興に関連する機会

自然復興に関連する機会は、自然復興に対する影響と依存関係によって生み出され、発生する可能性があります：

- 例えば、組織と社会が依存している自然復興や生態系サービスの喪失に関連する自然復興に関連するリスクを回避、削減、緩和または管理する場合
- 生物多様性の回復、再生、自然復興に基づくソリューションの実施などを含め、生物多様性の喪失を反転させるために積極的に取り組んでいるビジネスモデル、製品、サービス、市場、投資の戦略的変革を通じて。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5\(a\)を実施する方法に関する政府への勧告](#)

自然復興に関連するリスク

自組織および他組織の自然復興および自然復興への影響への依存に関連する、組織にもたらされる潜在的脅威。これらの脅威は物理的リスク、移行リスク、システミックリスクにより引き起こされる可能性があります。リスクは、通常、企業と環境との関係(歴史的に、現在または将来)に起因する、将来または予想される企業への影響に関連しています。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5\(a\)を実施する方法に関する政府への勧告](#)

再生および回復

再生：生態系またはその構成要素の生物物理学的機能および／または生態学的生産性を向上させるために、既存の土地利用の範囲内で計画された行動。多くの場合、人間に対する特定の自然復興の貢献に焦点を当てている(例えば、炭素隔離、食糧生産、再生農業における窒素・リン保持量の増加など)

回復：生態系の健全性、完全性、持続可能性に関して、永続的な状態の変化に焦点を当て、生態系の回復を開始または加速します。

科学的根拠に基づいたターゲットネットワーク (2023) [SBTN用語の用語集](#)

用語集 [cont.]

影響を受けやすい領域

企業の直接事業、および可能であれば上流・下流のバリューチェーンの資産および/または活動が、自然とかわる場所：

- ・生物多様性にとって重要な地域;および/または
- ・生態系の完全性が高い地域;および/または
- ・生態系の完全性が急速に低下している地域;および/または
- ・物理的な水のリスクが高い地域;および/または
- ・先住民族、地域コミュニティ、利害関係者への便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域。

TNFD (2023) [自然復興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v1.0](#)

SMART (ターゲット)

Specific (具体的)、Measurable (測定可能)、Achievable (達成可能)、Realistic (現実的)、Timely (適時) の頭文字をとったもの。スマートなターゲットは、これらのすべての基準を取り入れています。

利害関係者

プロジェクトによって直接的または間接的に影響を受ける個人またはグループ、およびプロジェクトに利害関係を持つ可能性のある人々、および/または肯定的または否定的にその結果に影響を与える能力を持つ可能性のある人々。

ターゲット

具体的な定量的かつ期限付きの目標で、できれば測定手段を定めたもの。

科学的根拠に基づく目標ネットワーク (2020) [自然復興のための科学的根拠に基づく目標：企業における初期指導](#)

変革

トランスフォームは、ACT-Dで特定された自然復興に関する4つのハイレベルなビジネスアクションの1つです。ACT-Dの「トランスフォーム (変革)」は、「負の影響を回避・削減し、土地・海景・河川流域の連携を回復・再生し、事業戦略とモデルを転換し、政策的野心を提唱し、戦略を企業ガバナンスに組み込むことで、システムの変革に貢献する」ためのステップで構成されています。

バリューチェーン

報告事業者のビジネスモデルとその企業が運営する外部環境に関連する相互作用、リソース、および関係のすべて。

バリューチェーンとは、企業がその製品やサービスを構想から提供、消費、使用終了に至るまで創造するために使用し、依存する相互作用、資源、関係を包含するもので、人的資源などの企業の事業における相互作用、資源、関係、材料やサービスの調達、製品やサービスの販売や提供などの供給、マーケティング、流通経路における相互作用、資源、関係、企業が事業を行う金融、地理的、地政学的、規制的環境などが含まれます。

国際財務報告基準 (2023) [S1 持続可能性に関連する財務情報の開示に関する一般的な要件](#)

Business for Nature

「自然復興戦略ハンドブック」は、「[今こそ自然復興のために](#)」キャンペーンの一環として製作されました。

これは、Business for Natureが、PwC UK (キャンペーンの公式知識パートナー) と協力して開発しました。

私たちは、あらゆる規模と地域の企業が自然復興戦略を開発し、公表するための有用なリソースを提供し、自然復興に対してポジティブでネットゼロ、公平な未来への変革を加速するのに役立ちます。

このハンドブックは、Business for Natureが貴重な貢献に感謝したいと考えている多くの組織や個人からの投稿やフィードバックを活用しています。「自然復興戦略ハンドブック」の翻訳にご協力いただいた<名前と団体名>に感謝いたします。これは急速に進化している状況であるため、現在入手可能な最善の情報を用いて、その全体像を把握することに全力を尽くしました。ハンドブックに記載されている情報は、時間の経過とともに変更される可能性があります。

著作権：2023年11月にBusiness for Natureによって発行されました。この出版物の全部または一部を複製する場合には、Business for Natureのタイトルとクレジットが記載されなければなりません。

テキスト © Business for Nature 2023.

PwCについて

「PwC」とは、英国の会員会社を指し、PwCネットワークを指す場合があります。各会員企業は個別の法人です。詳細については www.pwc.com/structure をご覧ください。

本書は、関心事項に関する一般的なガイダンスを目的として作成されたものであり、専門的なアドバイスを提供するものではありません。特定の専門的なアドバイスを得ることなく、この出版物に含まれる情報に対して行動するべきではありません。本書に含まれる情報の正確性または完全性に関して、(明示または黙示を問わず)いかなる表明または保証も行われるものではなく、法律で認められている範囲において、著者および販売業者は、本書に含まれる情報を信頼した、または信頼した情報に基づいた決定を行った、または行わなかったことによる利用者または他者の結果について、いかなる責任、責務、注意義務も負うものではありません。

**It's Now
for Nature**